



沖縄戦から81年 不戦の誓いを新たに



6月23日、沖縄は戦後81年を迎えました。沖縄では、戦前・戦中世代の人口が県内の総人口の1割を切り、「戦争の記憶の継承が課題」と言われています。また、日本の国土約0.6%の沖縄に在日米軍施設面積の70%以上がいまだに集中しています。「台湾有事」を意識した自衛隊の体制強化が進み、「戦前に似ている」など、危惧されています。

玉城知事は平和宣言の中で、「戦争という手段を否定し、あらゆる戦争に反対し、戦争によらない課題解決を追求することにより、日本国憲法にも国民の念願とうたわれている恒久の平和と、その過程としての核廃絶を目指すことは、空虚な理想論などではなく、取り組むべき責務として求められている」と述べました。

JTSUは、戦後80年となる昨年、広島や長崎、沖縄の平和研修を通じて、改めて「現地立つこと」「現地を見ること」「現地の話を聞くこと」の大切さを実感し、「対話を通じて、真実を語り継ぐ大切さ」を学びました。

これからも真実・現実を学び、次世代に明るい平和な未来をつないでいきます。

「平和の最大の敵は無関心である」

「戦争の最大の友も無関心である」

「みんなが反対すれば戦争はやめさせられる」

【阿波根昌鴻さんの言葉より】